

氏名(本国籍)	万国伟 (中華人民共和国)
学位の種類	博士(農学)
学位記番号	農博甲第431号
学位授与年月日	平成19年3月13日
学位授与の要件	学位規則第3条第1項該当
研究科及び専攻	連合農学研究科 生物生産科学専攻
研究指導を受けた大学	岐阜大学
学位論文題目	市場経済下の中国における農民的主産地の形成と 展開条件
審査委員会	主査 岐阜大学 教授 安部 淳 副査 岐阜大学 教授 今井 健 副査 信州大学 教授 加藤 光一 副査 静岡大学 教授 小嶋 睦雄

論文の内容の要旨

本研究は、1990年代市場経済制度導入以降の中国農業の商業的農業への移行にともなって園芸作物の主産地の形成が進み、市場への販路開拓を農民自らが行った事例を対象に、市場向けの商業的農業の生産の担い手および販売の担い手としての農民的産地商人「農民販銷戸」を検出したものである。

従来の中央指令型計画経済体制のもとでは食糧をはじめ青果物なども政府の流通管理下にあった。市場経済制度への移行にともない、生産者農民自身が生産すべき農産物の決定権をもつことになり、栽培する作物選択も主体的条件や適地適作などを考慮し、収益性や市場動向をもとに自主的に判断することになった。他方、新規導入した商品作物の販路は、既存のものがないために生産者自ら切り開かねばならないとともに、市場の選択そのものの成否が生産者および産地の存続を左右するものとなった。

ところで、中国農業の市場経済化は、生産と市場を一体不可分のものとし、農業生産の再生産にとって販路・市場の隘路打開が決定的に重要になった。その打開策の一つとして「農業産業化経営」がある。利潤最大化を行動原理とする企業のもとで生産主体としての農民が、主体性を喪失し、企業に従属し事実上の賃労働者化している。本研究は、こうした龍頭企業による産地および生産者農民の支配・従属化を「上からの産地形成」ととらえ、それに対して、生産者農民自身による産地形成と販路確保を「下からの産地形成」として捉えている。

本研究では、中国浙江省杭州市建徳県緒塘村イチゴ産地を分析対象に、イチゴ産地の形成とその展開を担保する生産の担い手および販売の担い手を検出し、分析した。

その分析結果は、以下の通りである。

1) 農民的産地は、四つの画期を経て形成された。1990年代の高度経済成長にともな

い、都市を中心に高付加価値園芸作物イチゴの需要が拡大し、それにあわせてイチゴ産地の拡大と大都市向けの販路が開拓され、イチゴ主産地形成がすすんだ。

2) イチゴの生産の担い手は、イチゴ主業経営、イチゴ販売兼業、農外兼業の三階層から構成されている。3 ムー以上の主業経営で家族労働力(夫婦)によって担われており、5 ムー以上は雇用労働力を入れている。2～3 ムーの販売兼業は生産と販売を兼業している。また、主業経営層への農地集積に限度があり、農外兼業も産地形成の不可欠の担い手である。

3) 販売の担い手・農民販銷戸は、2～3 ムーの中層農家内部から輩出している。

4) 新規産地に、その生産の担い手だけが存在しているとすれば、販路や市場対応は、外来商人や竜頭企業などに主導されるものとなったであろう。しかし、生産者農民出自の農民販銷戸が自主的な販路開拓と市場選択を行うことによって農民的な主産地が形成され、その展開を担保したのである。

審 査 結 果 の 要 旨

中国では、1980 年代初頭に集団的生産体制の人民公社が崩壊し、生産責任制の導入によって膨大な個別零細経営が誕生した。他方、官制的な流通・販売システムも事実上機能不全になったが、市場経済に即した市場流通の整備は立ち遅れていた。90 年代に入って市場経済化が急速に進展し、農産物の販売・流通なくして農業の再生産はありえなくなった。生産者農民は、生産した農産物の販売・流通ルートの開拓・市場アクセス問題の解決を迫られた。

農産物の生産・加工・販売を組織化する「竜頭企業」による「農業産業化」は、この問題への「上からの産地形成」である。「農業産業化」は、企業により農業生産と流通・加工・販売を連結し、農業収益と農民所得の向上に一定の成果を上げている。しかし、日本や中国における既存研究は、農民生産物の販売先として「竜頭企業」が確保されたことの評価にとどまり、利潤極大化を追求する企業の素で生産主体としての農民が主体性を喪失し、企業に従属化する事実上の賃労働者化している実態の認識を欠いている。一方、農民集団組織(農村專業合作經濟組織)によるものも行政主導が一般的で、「下からの産地形成」とは言い難い。

前述の企業や農民集団組織による賛成形成は、まだ点的存在で、圧倒的に多くは、生産者農民内部から販売の担い手を輩出し、販路を確保する「下からの産地形成」方式である。本論文は、市場経済の進展に対応して生産者農民がどのように産地形成に取り組み、直面した農産物市場・流通問題にどのように対応して新規作物産地を形成したかを解明するものである。本論文の目的に沿って、中国浙江省杭州市建徳県緒塘村のイチゴ産地を対象に、「下からの産地形成」について分析を行った。

その結果、得られた知見は以下の通りである。

1) 農民的な主産地形成の担い手は、個別分散的な生産、および販売の担い手であることを明らかにした。

2) 生産の担い手は、三階層に区分でき、3 ムー(20a)以上の上層がイチゴ主業経営、2～3 ムー(13～20a)の中層がイチゴ販売兼業経営、それ以下の下層が農外兼業経営である。主要な担い手の主業経営で家族労働力(夫婦)によって担われ、5 ムー(33a)以上は雇用労働力を入れている。中層は、イチゴの生産と販売の兼業であり、販売担当層は、中層から輩出している。主業経営の規模拡大には限界があり、農外兼業の下

層も産地形成の不可欠な担い手である。

3) 販売の担い手である「農民販銷戸」は、産地の形成とともに、中層から分化し、市場経済の進展とともに流通の担い手に転化していった。農民販銷戸は、仲買・中継機能を担い、産地と消費地卸売市場を連結する役割を担っている。

4) 市場経済の進展に対応した産地形成の要件は、商品生産の担い手としての生産者農民の存在と、他方でその生産物の販売の担い手の存在が必要である。特に、市場経済対応を迫られる中国農業にとって、販売の担い手の形成は緊急かつ不可欠である。既存研究が、大消費地拠点の卸売商人の行動と機能を解明したのに対し、生産地の農民出自の農民的産地商人の形成と存在など、その端緒的な形態および機能を初めて解明した点に本研究の積極的な意義があると認められる。

以上について、審査委員全員一致で本論文が岐阜大学大学院連合農学研究科の学位論文として十分価値あるものと認めた。

基礎となる学術論文

- 1 「市場経済下における中国イチゴ産地の形成—浙江省杭州市建徳県緒塘村イチゴ産地の事例—」 「農業市場研究」 第15巻第1号(通巻63号)2006.6、万国偉・安部淳・鄭青・M. ムンスール・ラーマン
- 2 「中国イチゴ産地における農民販銷戸の形成と機能—浙江省杭州市建徳県緒塘村・イチゴ産地の事例分析—」 「農業経済研究 別冊 2006年度日本農業経済学会論文集」 2006.12、万国偉・安部淳・M. ムンスール・ラーマン・鄭青